

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100505		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	共生家 みずほの グループホーム		
所在地	宇都宮市瑞穂2-14-10		
自己評価作成日	平成31年1月21日	評価結果市町村受理日	平成31年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成31年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着事業所として地域住民の福祉相談の場として、様々なご利用者様からのニーズにこたえらるるグループホームです。ご利用者様一人一人の人格・気持ち・人生を尊重し、常に愛情と笑顔と絶やさずにご利用者様や家族様と接していきます。ご利用者様や地域住民を含め安心して暮らせる福祉社会を目指していきます。地域福祉との向上に努め、地域で愛される施設です。日中はDVDレコーダーでの歌謡ショーをご覧になったり、毎日の体操や機能訓練を取り入れています。個々の能力に合わせた家事手伝いを行って頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中に立地し、静かな環境の中で生活できる事業所である。利用者のニーズに合わせた様々な事業を展開し、地域包括ケアシステムの構築を担い、看取りまで行えるような事業所、住民の身近な福祉の相談の場となるため、日々努力している。職員は、法人理念である「尊厳・愛情・信頼・安心」を基本に、利用者一人ひとりの人格、気持ちを大切に、愛情と笑顔と絶やさないケアに努めている。事業所は、職員が働きやすい環境を整備することで、職員の笑顔とやる気を引き出している。毎日のケアの中で心が温かくなるような出来事を記録した「ニヤリハットのノート」、職員間で感謝の気持ちを伝え合う「サンクスカード」、職員が働く上での様々な相談事を、外部の客観的な目線でサポートしてくれる人事顧問の導入など、利用者も職員も笑顔で安心して生活できる体制作りにも努めている。事業所内でDVDを観るなど、ゆったりと過ごすことはもちろん、公園への散歩やコンビニエンスストアでの買い物、外食等も楽しみながら、利用者が安心して生活できることを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共生会の理念である「尊厳・愛情・信頼・安心」を基本に地域密着型サービスの基本である住み慣れた地域での生活を出来るようにする視点から。共生会の理念の一つにある共に生き、共に育み安心して暮らしてける社会福祉を目指し、関わる全ての方々と信頼関係に努めている。入社時に渡すルールブックにも理念が記載されている。	「尊厳・愛情・信頼・安心」を法人理念として掲げ、ユニット内に掲示し、職員は仕事前に目にして意識を高めている。入社時に渡すルールブックにも理念を記載し、共に生き、共に安心して暮らしてけるようなケアを実践するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H28年5月の開設により、年に数回の地域住民や他事業所との交流が図れるように、お祭りや催し物開催を企画している。自治会にも加入している。	法人で自治会に加入している。同法人内の事業所と交代で、お祭りやボランティアの催し等を企画して地域住民に参加を呼び掛けている。訪れた住民の福祉の相談に乗ることで、地域との距離を縮めている。地域の祭りや敬老会に参加したり、小学生の職場見学を受け入れたり、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、勉強会、地域ケア会議に参加し、事業所のピーアールに努めている。気軽に相談しやすい雰囲気作りにも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催している。事業所の取り組みやサービス状況を報告して、出た意見やアドバイスをサービス向上に生かしていく。	家族代表、利用者、民生委員、地域包括支援センター職員の参加のもと、併設の小規模多機能型事業所と合同で2か月ごとに開催し、事業所の取り組みやサービス状況を報告している。地域に詳しい民生委員からの情報によって、散歩コースを増やすなど、意見等を運営に反映させている。	議題を定め、内容に応じた参加者を得るなど、多様な意見をサービス向上につなげる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの意見交換を行い、協力関係を築いている。	事業所の空き情報などの問い合わせに対応してもらうほか、介護保険等の手続きの際にも、なじみの市の職員がおり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを通じて、正しい理解を深めている。年に2回の身体拘束廃止に関する研修や2か月に1回の身体拘束廃止の委員会を開催し、常に介助方法の話し合いを持ちながら、身体拘束を行わないケアを徹底している。	身体拘束マニュアルを作成し、入社時研修のほか、年2回全職員を対象に研修を行っている。リスクマネジメント委員会を設置し、スピーチロックを含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいて、虐待に関する事例等の話と説明を行いながら虐待のない介護を努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や図書等を通じて権利擁護に関する制度の理解に努め、必要性のある利用者様については地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携をとりながら、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に、不明点が残らないように十分な説明や話し合いを行い、理解、納得して頂けるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や提案・要望があれば管理者に報告し、運営に反映されている。また、運営推進会議でも報告するように心掛けている。	運営推進会議の参加時や面会等での家族の来所時のほか、2か月に1回写真付きの手紙を出して状況を伝え、意見を聞いている。遠方の家族には電話で話を聞いている。ホームページにブログを設け、日々の情報をアップして喜ばれており、出された意見等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議や月1回のユニット内の会議を開催し、意見や提案を述べられる機会を設けている。また、個人面談にも対応しており話し合いをしながら運営に反映されている。	管理者は月1回の職員会議やユニット会議で意見や提案を聞く機会を設けている。議題を事前に職員に出してもらったうえで話し合い、出された意見を運営に反映させている。人事顧問をおくことで、悩みや職場での交渉を客観的な立場でサポートしてもらい、働きやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な職位表を開示し、目標を持って働ける環境にしている。社内交流行事も積極的に企画し、補助も行っている。選べる社員旅行、法人独自のWinWinポイント、誕生日月には法人から誕生日プレゼントを用意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議に合わせてOJTを実施するようにしている。OFF-JTにも積極的に参加を促しており、新卒、未経験の職員でも安心して働けるように就業マニュアルを用意している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の交流行事・施設見学等に参加を行い、閉鎖的な施設やマンネリ化とならないように他事業所との取り組みを学ばせてもらったり、常に前向きなモチベーションを得られるよう配慮している。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前相談、契約時、アセスメント、サービス担当者会議を通して本人、家族の困っている事、不安や要望を可能な限り聞かせて頂きサービス提供を行う上で良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前相談、契約時、アセスメント、サービス担当者会議などを通して本人・家族の困っている事、不安や要望を可能な限り聞かせて頂き、サービス提供を行う上で良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学やアセスメントを通して、家族様やご利用者様の要望や意向を把握し、把握した上で必要とされているサービスの提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の身体状況や一人一人の力に応じた作業や家事を一緒に行いながらともに暮らす「家族」というイメージを持って接するように関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけではなく、家族にもできるだけ関わって頂けるように協力して頂き、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの馴染みの美容室、かかりつけの歯科医に通って、できるだけ馴染みの場所や人とのつながりを継続できるように、家族にも協力して頂いている。	家族の協力を得ながら、美容室への外出、墓参りや親類の葬儀への参列など、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。介護タクシーを用意し、家族の負担軽減につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や職員が会話の橋渡し等を行いながら、馴染みの関係や信頼関係が持てるように配慮している。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した際には、思い出の写真を集めたアルバムをご家族様にお渡している。退去後もご利用者様や家族様が気軽に立ち寄れる環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月日の中でご利用者様とご家族様が交わした会話や、ホーム内での会話の中での意向を取りいれている。	家族から以前の仕事や趣味等の情報を得て声掛けしている。普段から会話を積み重ねてアセスメントを行い、編物の趣味や日記をつける習慣など、思いや暮らしの希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様の面会時に聞き取り等の把握に努めている。また、他施設の職員からの利用の様子を聞き取っている。知人、友人が来訪された時なども会話の中から把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況や有する能力等、アセスメントや日々のケアを通して把握し、反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の細かい点はユニット会議でその都度話し合い、統一したケアが行えるよう努めている。ご利用者様やご家族様からの意見を反映した介護計画の作成している。	ユニット会議で話し合いながら作成し、利用者が安定した状態であれば、6か月～1年毎に見直している。入院など変化に応じて改めてモニタリングし、計画を作り直している。看取りが必要な時も状態に応じて1か月毎に見直しを行い、家族や医療チームの意見を聞きながら現状に即した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや個別記録の記入を行い。全職員が記録に関わり、情報を共有しケアや計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じて併設されている小規模多機能の行事に参加して頂いたり、臨時の受診や買い物への同行などが、できる限り要望を叶えることが出来るように努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用してボランティアを招いたり、地域包括支援センターからの情報の収集をしたり、地域の催し物に参加したりと楽しみがある生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視してほとんどの方が提携医療機関による受診を受けている。状態の変化時には主治医と家族への速やかに連絡し、対応を行っている。	かかりつけ医の受診は家族対応で行っているが、ほとんどの利用者は提携医療機関による月2回の往診を受けている。歯科は週1回訪問治療が受けられるよう支援している。緊急時にもすぐに対応してもらえる仕組みをとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート等にて日々の心身の状態や情報、気づきを共有している。週1回の訪問看護ステーションとの医療連携を行い、利用者の状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会、退院時のカンファレンス等で情報収集に努めている。また、主治医とMSWとの面談、電話での連携を十分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは家であることを基本にご利用者様、ご家族様の自己決定を重要視した看取りの支援をさせて頂くように努めている。重度化を伴う意思確認書(同意書)については家族への説明を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所でできること等の指針を作り、家族へ説明している。職員研修などで学びを深めるとともに、家族の気持ちや希望を聞きながら看取りの準備を進めることを大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は、職員へ細かく周知しており、内部研修においても、応急処置や初期対応などを学ぶ機会を設けて実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(3月、9月)に日中、夜間を想定した避難訓練を行い、利用者様の安全な避難方法を確認したり、災害時の協力は自治会、消防団にお願いをしている。	小規模多機能型事業所、隣接するサービス付き高齢者向け住宅と合同で年に2回、夜間想定も含めて避難訓練を行っている。避難方法や業者による消火器の使用方の説明と実践に取り組んでいる。自治会の消防団にも災害時の協力をお願いしている。水・菓子等の備蓄も整備している。	消防署立ち合いの訓練の実現に取り組むとともに、地域住民に訓練参加を呼びかけ、さらなる協力体制の構築を図るなど、実践的な取り組みを期待したい。

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の力に応じ、声掛け対応を行っているが、基本的にはプライバシーを損ねるような対応はしないようにしている。	書類は書棚に適切に保管し、ブログへの写真掲載、ケアにおける情報の共有等、個人情報の取り扱いについて利用者に確認している。職員にはプライバシーに関する守秘義務を意識付けしており、排泄時の声掛けに注意するなど、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定に結び付けている。表せない利用者様には、プライバシーを損ねるような対応にならないようにしている。お洋服を選べる利用者様にはその日のお洋服も選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールをこなすのではなく、その日、その時のご利用者様の状況に合わせて、変更、方向転換をして出来る限りの訴えや要望を最優先することを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るように、個人を尊重できるような支援を行っている。お洋服も選べる方には選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも給食方式ではあるが、栄養士と相談し嗜好調査を行いながらメニューに反映している。また、季節に合わせたメニューやバイキング給食も行っている。その人の能力に合わせて、職員と共に準備や片づけを行っている。	法人の栄養士が献立を作成し、ごはん・みそ汁は事業所で作っている。月1回のリクエスト食のほか、季節に合わせた食事やバイキング給食を取り入れたり、おやつレクリエーションを実施し職員と一緒にキッチンで作るなど、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員一緒に食事の開始ではなく、介助に時間の掛かる重度の方には食事開始の時間を繰り下げたりと、ご利用者様のタイミングを考えながら提供している。状態に合わせて形態を変えつつ、栄養補助として高カロリードリンクを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台まで誘導し、その方の口腔状態に応じた支援を行っている。可能な限り座席で済まされるのではなく、洗面台までお連れすることで生活のメリハリが確保できるように努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が行えるよう支援をし、ご利用者様それぞれの排泄間隔を把握し、声掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表を使用し、各々の排泄パターンを把握して声掛け誘導を行っている。定期的な誘導で立ち上がりの訓練にもなり、トイレでの排泄や排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の便秘の原因や及ぼす影響を理解しながらも、毎日の体操を取り入れ、身体を動かして頂くと共に、1日1000cc目安とした水分摂取を促している。希望のある利用者様には個人購入でヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様それぞれの希望に合わせて実施している。体調が優れない時や拒否がある際には時間や日にちを調整して実施している。楽しんで入浴して頂けるよう入浴剤の使用もしている。	週2回～4回入浴できるよう支援している。1対1での支援を基本としているが、利用者の身体状況や希望に合わせて柔軟に対応している。ゆず湯や入浴剤を使用したり、入浴後にジュースや飲み物を準備するなど、入浴が楽しみなものになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の個室や共有スペースにマッサージチェアで自由に過ごして頂きながら、夜間は居室の室温や家具、入眠状態の確認を行いながら、安心して静養を行えるように支援している。自宅で使用していた枕なども使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士連携を図りながら、処方されている薬について十分理解するよう努めている。症状の変化については、ご家族様や主治医と相談しながら服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段から昔懐かしい曲を耳から刺激を受け、口づさむような楽しく、落ち着ける環境を作っている。その人がこれまでの生活や力に応じた役割を持って頂き、なるべく個々の希望に沿った気分転換に対応している。毎週水曜日は映画の日とし、お好きな映画を観て頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、ご利用者様のご希望に合わせてながら、生活歴や趣味嗜好に沿った外出や外食などの支援に努めている。天気の良い日には、施設周辺の散策を行い、身体に負担のかからないようにしている。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、季節の良い時期には、近くの公園で花を見たり、コンビニエンスストアで買い物をしたりと、希望に合わせた外出支援をしている。日光方面にお詣りに出かけたり、月1回程度外食するなど、利用者の希望や体調に合わせて楽しめるよう支援している。	

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様、ご家族様の意見を尊重しながら、お財布を所持してもらっている方もいる。管理が難しく、紛失の可能性のある方については、ご説明をしたうえで金庫にお預かりをしておき、支出報告書をご家族様にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご利用を希望される方については、いつでも使用して頂ける様支援を行っている。また、ユニットごとで、毎月の様子を写真付きのお手紙をご家族様宛に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも快適に過ごして頂ける様、環境整備を行い、清潔を心掛けています。室温、湿度にも配慮しながら椅子だけではなくソファに座って頂いたり、ご自宅と同じように過ごして頂いております。各ユニットにDVDレコーダーを設置し、いつでもお好きな番組を観られるようにしています。	共用空間は日当たりがよく明るく、エアコンや加湿器を使用して快適に過ごせるようにしている。次亜塩素水入りの加湿器を使用し空気の清浄にも配慮している。マッサージチェアを置いたり、DVDレコーダーで好きな番組を観られるようにするなど、楽しく居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体的な事も含め、なるべくその人の心地よい場所になれるように、日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具やコタツまたは思い出の写真を飾って頂き、ご自宅に居る時と少しでも近い環境作りに努めている。	エアコン、ベット、マット、カーテンは備え付けで、馴染みの家具やコタツ、布団、ポット等を持ち込んでもらっている。位牌・遺影を置いたり、思い出の写真を飾ったりと、利用者がそれぞれ居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を理解しながら、安全な環境作り、できる事は行って頂ける様に、見守りのある環境の中で、日々の生活が送れるように支援している。		